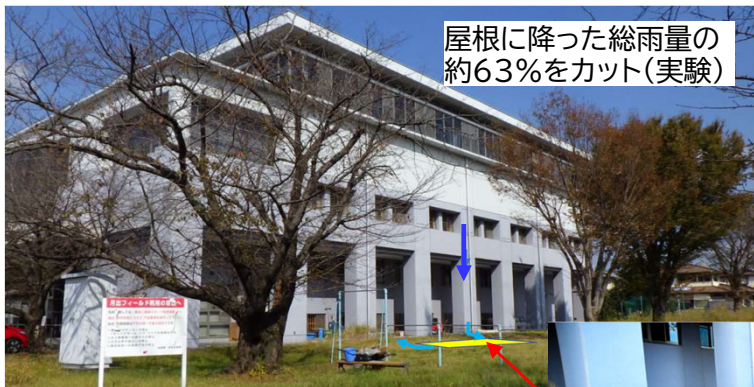


## 雨庭（あめにわ）

庭＝に（土） わ（場所）

屋根などに降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間

欧米のrain garden、bioswaleなども含む、雨水を処理するためのちょっと窪んだ空間



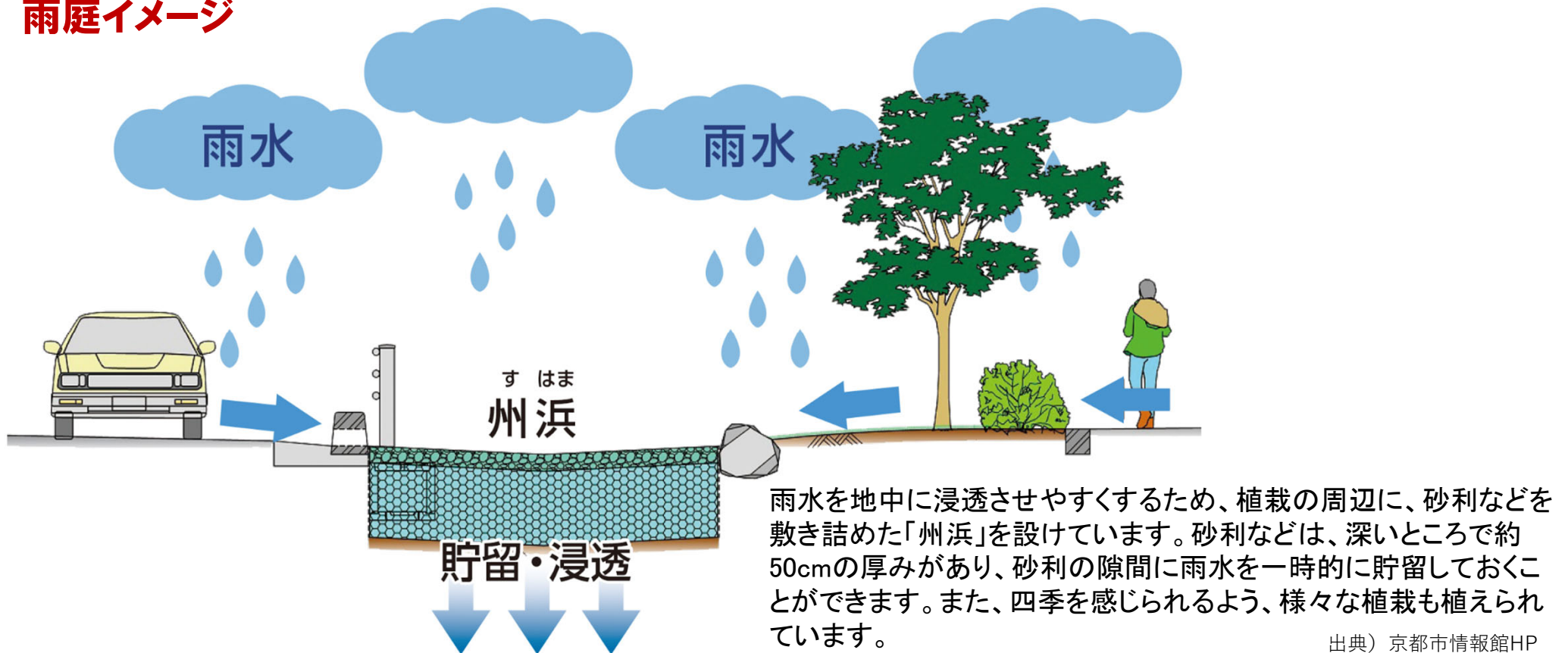
出典) 環境省HP: ウォータープロジェクト～良好な水環境の活用・保全に向けて～、2022年度第2回「グッドプラクティス塾」、  
「持続可能な水循環を実現する多様な主体との連携－緑の流域治水や自然再生をきっかけとして－」熊本県立大学 島谷特別教授の資料より

# 雨庭とは

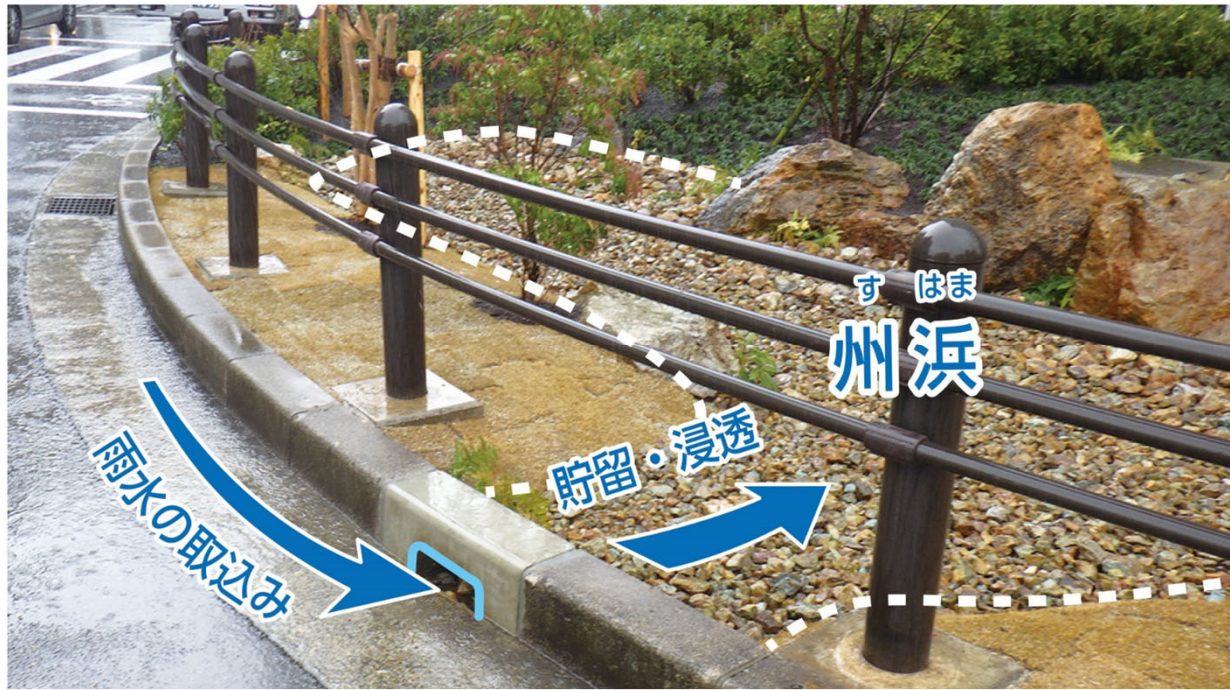
「雨庭」は、地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間です。

アスファルトなどに覆われた都市空間では、地上に降った雨はほとんど地中に浸み込むことなく排水されていきます。雨庭は、道路上に溢れる雨水を一時的に溜めることで氾濫を抑制し、地下水を涵養することで健全な水循環に貢献します。また、このような雨水流出抑制の効果に加え、修景・緑化、水質浄化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果も期待されることから、近年広まりつつある「グリーンインフラ※」の一つとして注目されています。

## 雨庭イメージ



# 雨庭整備事例



道路の縁石の一部を「穴あき」のブロックに据え替えることで、歩道上や直接雨庭内に降った雨水だけでなく、車道上に降った雨水も雨庭の中に取り込みます。

## ▶雨庭の雨水流出抑制機能

### 特徴1:集水

水が浸透しない舗装面などに降った雨水を集める。

### 特徴2:貯留

集めた水を一時的に貯める浅い窪地などを備えている。

### 特徴3:浸透

貯めた水をゆっくりと地中に浸透させる。

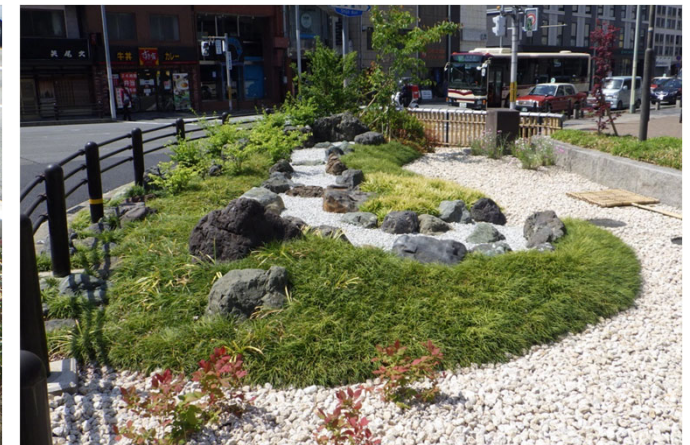
## 京都市の整備事例



九条大石橋交差点南西角



四条堀川交差点



北野白梅町交差点周辺

出典) 京都市情報館HP

- ・「雨庭」は、地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間であり、雨水流出抑制に加え、水質浄化、修景・緑化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果が期待できる
- ・京都市では、四条堀川交差点において、平成29年度から雨庭を導入し、令和2年7月時点で合計3つの雨庭を整備済み
- ・街路樹とその周辺部の美化や緑化に取り組んでもらう「京都市街路樹サポーター制度」(154団体、2,583名：令和2年3月末時点)も活用し、この雨庭における日常の水やり、除草作業などは、地元自治会や企業等がボランティアで実施

## 雨庭（京都府京都市）



四条堀川交差点の北西角に、「雨庭」を整備



地上に降った雨水を、下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間であり、修景・緑化に加え、雨水流出抑制、水質浄化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果が期待される



「雨庭」を構成する主な植栽・景石

